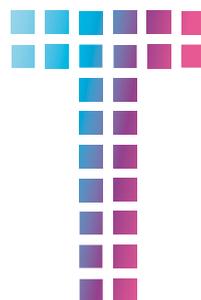
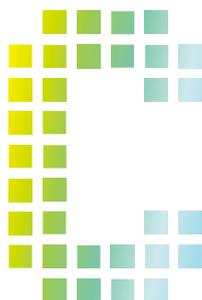


HU-DIA

VOL.24
Jun. 2015



ひろがる





ひろがるICT

地域経済社会の発展を目指して

公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター(略称:ヒューマンメディア財団)は、
情報通信技術 (ICT) とマルチメディア技術の融合した技術である
「ヒューマンメディア」を創造し、既存産業の高度化や新産業の創出を図り、
地域経済社会の発展に貢献することを目的として設立された法人です。
北九州市の外郭団体でもある本財団は、平成8年4月の設立以来、
北九州市と連携しながら、様々な事業を実施し、地域産業の振興に取り組んでいます。

ものづくりクリエイターの祭典

03

創造的デジタル
ものづくり支援事業

アート×デザイン×テクノロジー

04

北九州デジタル
クリエイターコンテスト

ものづくりへの興味を育てる

05

創造的デジタル
ものづくり支援事業

次世代を担う
技術者育成をめざして

06

高度 IT 人材育成事業

アイデアから生み出す
新しいサービス

07

地域 ICT
イベント開催支援

学生と地域の人々が連携し、
ICT を活用して地域活性化、
地域課題解決に取り組む

08

コミュニティ創造
支援事業

ICT で農作業を
活性化円滑化・効率化

09

ICT の活用による
農業支援プロジェクト

安全・安心で
快適なサービスをうみだす

10

介護プロジェクト

地球にいちばんやさしい
テナントビルへ

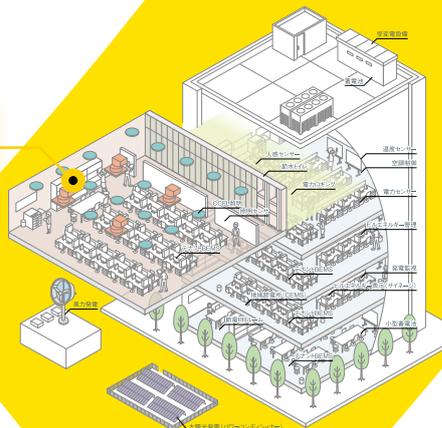
11

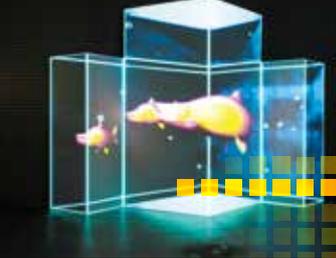
スマート
オフィス化事業

地方創生を目指す
新たな挑戦のかたち

12

北九州 e-PORT
構想 2.0





ものづくり
クリエイターの
祭典

3Dプリンターやレーザーカッターに代表される新しいテクノロジーと、ネットワークの世界的普及が化学反応を起こし、古い大量生産モデルではつくれない製品が、個人でもつくれるようなパーソナルファブリケーションの時代が到来しました。

今、「第三の産業革命」とも呼ばれるムーブメントが世界の各地で生まれ広がっています。

このムーブメントを促進するためクリエイターの生み出す作品を広く発表し、交流する場を地域に提供するために「MONOCAFE(モノカフェ)」を主催しています。

デジタルとアナログ、プロとアマをつなぐ架け橋となり、多様な創造性が誕生するイノベーションイベントです。



EVENT

MONOCAFE 2014

日時 平成 26 年 11 月 15 日・16 日
場所 西日本総合展示場新館

KITAKYUSHU
MONOCAFE

特製プラネタリウムや超小型人工衛星・ロケットなどの宇宙コーナー、羽ばたき飛行機やラジコンヘリ・オープンスカイプロジェクト講演などのトビモノ特集、プロジェクトマッピング・360度 3D 映像・バーチャルリアリティ体験コーナーなどの最新映像、Pepper や飛行ロボット・ロボットバトルなど、知的好奇心をそそる新しいテクノロジーによる作品が展示されているだけでなく、竹で作られたチェロやミニチュアバイオリンなど、新しい視点によるアナログの技法の作品なども展示されました。





アート
×
デザイン
×
テクノロジー



デジタルテクノロジーを利用して新しい表現を創り出すデジタルクリエイターの発掘と育成を目指して「北九州デジタルクリエイターコンテスト」を開催しています。

このコンテストでは、イラスト・漫画・CGアニメーション・実写ムービーに加えて、ガジェットやインスタレーションなどの電子技術を応用した作品なども広く受け入れており、多彩な作品が一堂に集まり、お互いを刺激し合うことで新たな作品を生み出すムーブメントをひきおこすことを目指します。今年度も多くの作品のご応募をお待ちしています。



EVENT

北九州デジタルクリエイターコンテスト 2015 表彰式

日時 平成 27 年 3 月 21 日 場所 北九州市漫画ミュージアム 6 階

北九州デジタルクリエイターコンテスト 2015 表彰式が行われ、併せて作品展示会も開催。北九州、福岡、山口、京都、名古屋等各地から集まった受賞者のみなさんが、和やかな雰囲気の中で表彰状を受け取り、展示されたお互いの作品を見学。また、ガジェット作品のスケボー型ピークル「KINTON」、おいいを計測する「計測犬しゅんたろう」のデモには、ジュニア受賞者の笑顔がこぼれていました。

大賞「時空間のしっぽ」annolabさん、「Willy's Night of Surprises」久目健人さんの2作品は、3月下旬小倉駅 JAM ビジョンでも公開されました。



1. 大賞：「時空間のしっぽ」annolab 2. 奨励賞：「Willy's Night of Surprises」久目 健人
北九州デジタルクリエイターコンテスト
<http://kdcc.info>





ものづくりへの
興味を育てる



EVENT

多くの可能性を秘めている子どもの好奇心と知的興味を育てるため、小学校5年生から中学校3年生までを対象に「プログラミング&電子工作」「レーザーカッター手描き動物工作」「3Dプリンター」「レーザーカッター工作」の4回のサマースクールを開催しました。

今後も地域のデジタルものづくり施設やコミュニティと連携し、継続的に楽しみながら学べる機会を提供していきます。また、教える側の人材育成にも取り組み、新時代のクリエイターの育成や、新しいビジネスの創出につなげていきます。



夏休み！子どもデジタル工作教室

- 日時 平成26年8月10日 プログラミング&電子工作
- 8月18日 レーザーカッター手描き動物工作
- 8月20日 3Dプリンター
- 8月26日 レーザーカッター工作

場所 西日本工業大学デザイン学部 小倉キャンパス・地域連携センター

「プログラミング&電子工作」では今大人気の超小型コンピューターRaspberryPiとプログラミング言語Scratchを使って一日で簡単なゲーム作り、「レーザーカッター手描き動物工作」「レーザーカッター工作」では、キーホルダーやモバイルなど思い思いの形をレーザーカッターで切り出し、作品作りを楽しみました。「3Dプリンター」講座では初めて学ぶCADを使ってパソコン上で形を作り、3Dプリンターから魔法のように出力される様子に眼を奪われていました。





次世代を担う
技術者育成を
めざして

情報サービスにおける新たな技術トレンド、システム形態や多様化するアプリケーション開発への対応を促進するため、それを支える高度な IT 技術者の育成を目指した研修を行っています。

北九州地域の IT 技術者のスキルアップを目指した講座のほか、中高生を対象としたアプリやゲームの開発体験講座を開催、まずは IT に興味を持ってもらい、その後、段階的に本格的なプログラミングや技術を学べる環境を提供し、将来的に次世代の ICT 社会を担う若手人材の創出や育成を目指しています。



高校生のためのスマホアプリ開発体験合宿

日時 平成 26 年 12 月 7 日 言語研修
平成 26 年 12 月 20・21 日 合宿
場所 北九州ハイツ



高校生を対象とした合宿型のスマートフォンアプリ開発研修で、企画、デザイン、プログラミング、リリースというアプリ開発の工程を体験、チームビルディング、プレゼンテーションなど社会生活においても必要なスキルの習得も目指しました。

11 名の高校生が、メンターから技術的なサポートを受けつつ自分たちだけのオリジナルアプリを作り上げ、最終日には発表会でプレゼンを行い審査、評価を受けました。





アイデアから
生みだす
新しいサービス

北九州地域で、ICTに関連する各種イベントを、地域コミュニティグループと共に開催または支援を行います。イベント企画は随時募集し、年5回程度のイベント共催・支援を予定しています。

行政機関が保有する公共データなどを広く開かれた利用ができる形で公開したオープンデータを使ったアイデアソン・ハッカソンや、最新のIT技術・製品に関するハンズオンセミナーなどを支援します。これらの支援を通じ、新ビジネスの創出や地域経済の活性化に繋がるサービスに結びつけ、市民生活の利便性向上などを目指しています。

EVENT

オープンデータデー 2015 in Kitakyushu
～お店に行きたくなるアプリって何だろう～

日時 平成 27 年 2 月 21 日

場所 Fabbit

全世界（日本国内62箇所）同時に行われる年に一度のオープンデータイベントに、北九州会場として Code for Kitakyushu と共催。飲食店のオーナーなど、食に興味があるメンバーが集まり、様々なアイデアを出し、グループ発表を行いました。



EVENT

シビックハック in 北九州

日時 平成 26 年 10 月 18 日

場所 Fabbit

平成26年2月に行われたオープンデータアイデアソンをもとに、実際にWebアプリを作成するハッカソンを Community Next と共催。年齢・会社・国籍を超えた16名の参加者により「みんtra」「ここから5分」など、4つのアプリケーションが作成されました。





学生と地域の人々が連携し、ICT を活用して地域活性化、地域課題解決に取り組む

九州工業大学大学院のPBL (Project Based Learning) と連携し、焦電センサーを用いて1分毎の来街者数を計測するセンサーボックスを開発し、商店街内の4箇所に設置。マルチホップ無線通信とインターネットを経由して来街者数をリアルタイムでサーバーに蓄積し、リアルタイムの来街者数や予測来街者数の表示、過去の来街者数の分析等が可能なWebサービス「魚町にぎわいチェッカー」を提供しました。

また、九州国際大学と八幡駅前株式会社と連携した「わいわい八幡」の活動として、地域の古い写真を見ながら、学生が地域の高齢者から話を聞き、インターネットの地図上に写真や情報を登録する「ストーリーピン」を活用したイベントを開催しました。

今後も、商店街や八幡駅前等をフィールドとして、学生と地域の人々が連携し、ICTを活用した実証実験やイベント等を実施する予定です。

EVENT

商店街にぎわい見える化 ICT 実証実験

日時 平成 27 年 2 月 2 日～ 27 日 場所 魚町商店街

商店街内に来街者数を計測するセンサーを複数設置し、リアルタイムの来街者数表示と、過去の来街者数の分析が可能な Web サービス「魚町にぎわいチェッカー」を開発、提供。

実証実験の後、報告会を行いました。



みんなでつくろう！八幡自慢マップ ～ストーリーピン編～

日時 平成 26 年 10 月 12 日 場所 平野市民センター

九州国際大学、八幡駅前開発株式会社と連携し、地域の古い写真を見ながら、学生が地域の高齢者から話を聞き、インターネットの地図上に写真や情報を登録する「ストーリーピン」を活用したイベントを開催。



農業とICTのマッチングセミナー IN 北九州

ICTの活用による農業支援プロジェクト



ICTで農作業を活性化 円滑化・効率化

現在、国の成長戦略として農業振興が打ち出されていますが、ICTの浸透・導入については遅れています。生産者はICTを活用した生産や流通の効率化や高収益化への期待は持っているものの、手軽で身の丈にあったしくみがまだ市場に出回っていない・コンピュータを使い慣れていない・とっつきにくいといったことから、個人農家や中小の法人には浸透していません。

このプロジェクトでは、最新の経営手法やICTを活用することで農家の収益性を高め、地域の農業を活性化させることを目的として、ふたつの重点施策のもとに活動しています。

- 1 農家の経営力強化（生産者から経営者へ）
経営分析や経営戦略新たなマーケティング手法等の導入を支援し、経営の基盤強化に貢献
- 2 新規就農者の育成と自立支援
新たな担い手に、経営手法や営農に役立つICTを導入することで、早期の事業安定化を支援

また、有識者を中心としたワーキンググループを構成、検討したICTをモデル農家に適用し、フィードバックしてもらいながらより精度を上げていく方式をとっています。

EVENT

第3回「農業とITのマッチングセミナー in 北九州」 ～「成長戦略」の波に乗る。今からできる 強い農業経営へのステップ・アップ！～

日時 平成27年1月23日 場所 マルチメディアホール

セミナーでは、流通改革・農産物のブランド化・6次産業化を通して進化しつづける、先進農業の姿を紹介。交流会では講演者のみなさんによる生産物の試食、宮崎直送の伝統野菜を使用した料理がふるまわれました。





安全・安心で
快適なサービスを
うみだす



地域や暮らしと密接に結び付いた介護やヘルスケアの現場にも、ICTを活用したサービスやシステムの導入を目指しています。

スマートフォンやタブレット、ウェアラブルデバイス（身体に装着して利用することが想定された端末）等を使用して、事業者や利用者の負担軽減へ繋げることを目的としたサービスの導入を進めています。



写真協力：社会福祉法人 年長者の里

EVENT

第16回西日本国際福祉機器展

日時 平成26年11月7日～9日 場所 西日本総合展示場 新館

安全・安心でかつ快適な介護サービスの実現を目的とした、「介護サービス提供記録システム（すま〜とヘルパー）」の導入支援を介護事業者へ向けに行うため、各種展示会にも出展し、地域への展開や市内企業のビジネス拡大・参入の促進を進めています。

「すま〜とヘルパー」は、訪問介護先でタブレットから記録した介護データをリアルタイムにデータセンターに蓄積し、データセンターを介して事業所との伝達・報告をスムーズに連携する事で訪問介護1件あたりの拘束時間を減らすとともに、タブレットには介護データが残らないため、重要な介護データを持って回る事がなくなり、ヘルパーは安心して直行直帰勤務をする事ができます。またデータセンターに蓄積した介護データを活かしサービス提供後のレセプト業務やスケジュール調整など事務作業の負担を軽減し、介護業務にゆとりを生み出すことで介護サービスの向上も図ることができます。



地球にいちばん やさしい テナントビルへ

STEP 3

省エネルギー改善

オフィスの消費電力の70%をしめる空調と照明を最新の省エネ機器にリプレース。

STEP 2

見える化

BEMSの機能をフル活用しオフィスの省エネをサポート



STEP 1

エネルギーの再生

自然エネルギーを賢く利用してビルに供給しています。

STEP 4

オフィス環境やコミュニティに対応した省エネ自動制御

テナント節電レベルの設定

各テナントが業務形態や、CEMSからのデマンドプライス情報に沿って5段階から節電レベルを設定します。

ダイナミックプライシング

CEMSからの時間帯別の料金を表示し抑制を促します。

STEP 5

テナント独自の省エネ行動へ

需要予測

実際の使用電力と照合、目標値を超過した場合は警告画面に切り替わります。

STEP 6

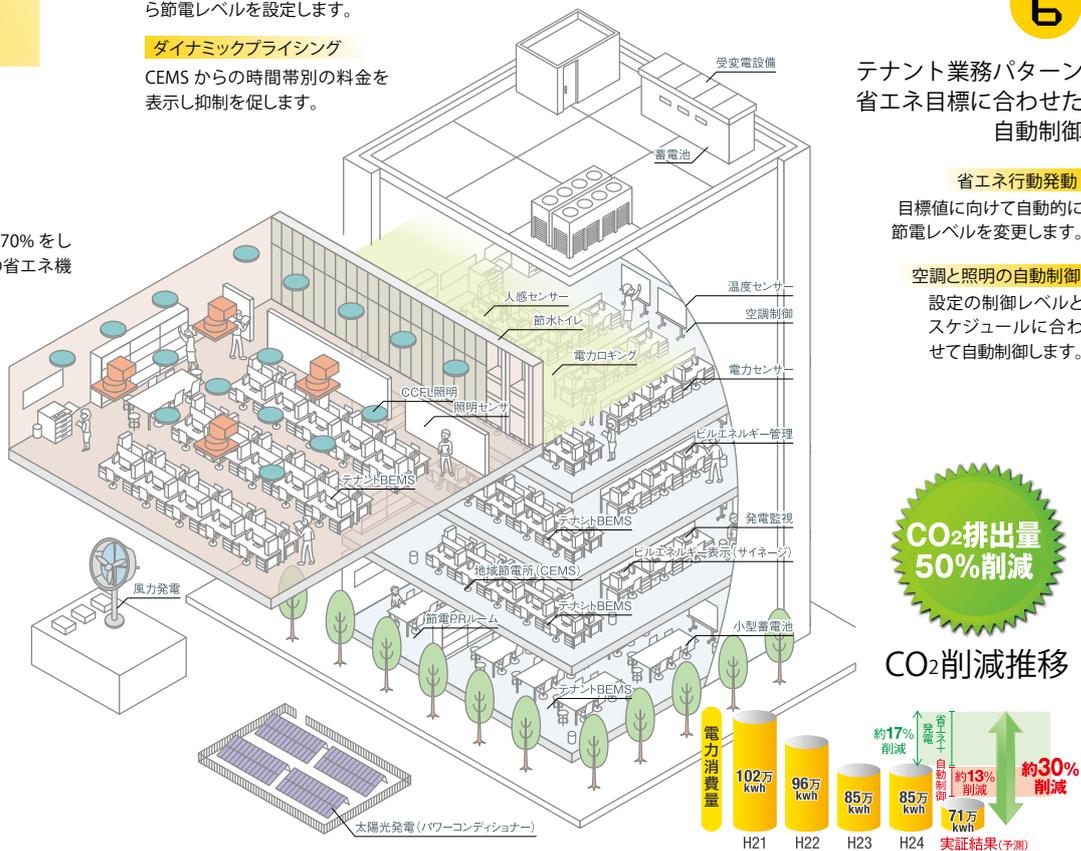
テナント業務パターン 省エネ目標に合わせた 自動制御

省エネ行動発動

目標値に向けて自動的に節電レベルを変更します。

空調と照明の自動制御

設定の制御レベルとスケジュールに合わせて自動制御します。



CO2排出量
50%削減

CO2削減推移

ICTを活用してオフィスの節電と快適性を両立させるスマートテナントビル化を目指した節電システムを、ヒューマンメディア財団ビルへ導入・展開してきました。

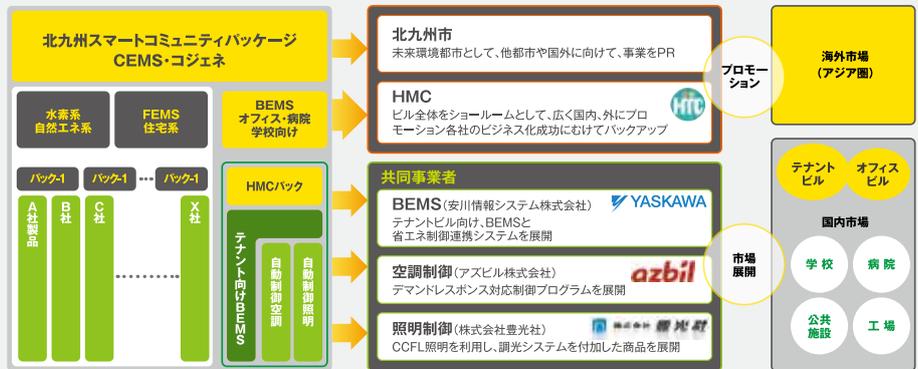
風力や太陽光の発電設備の導入、ビル内設備の刷新と省エネ自動制御、ビル内のエネルギー情報を収集したBEMS*1を見える化することで全テナントの節電行動をサポート、CEMS*2と連携して電力のピークカットやダイナミックプライスにも自動対応することで地域のエネルギーマネジメントにも貢献。

今後はこの節電システムをレベルアップし、ビジネス展開することで「デジタルエコ社会の実現」と「地域ICTの活性化」を目指していきます。

BUSINESS DEVELOPMENT

今後の事業展開

平成26年度はこの節電システムを、よりレベルアップし、ビジネス展開することで「デジタルエコ社会」の実現と「地域ICT産業の活性化」を目指していきます。



*1 BEMS…「Building Energy Management System」ビル内のエネルギー監視システム。ビル内の配電、空調、照明、換気の各設備、OA機器等の電力使用量のモニターや制御を行う。

*2 CEMS…「Cluster/Community Energy Management System」地域内のエネルギー監視システム。太陽光発電所や風力発電所を含む発電所での電力供給量と地域内での電力需要の管理を行う。





地方創生を目指す 新たな挑戦のかたち

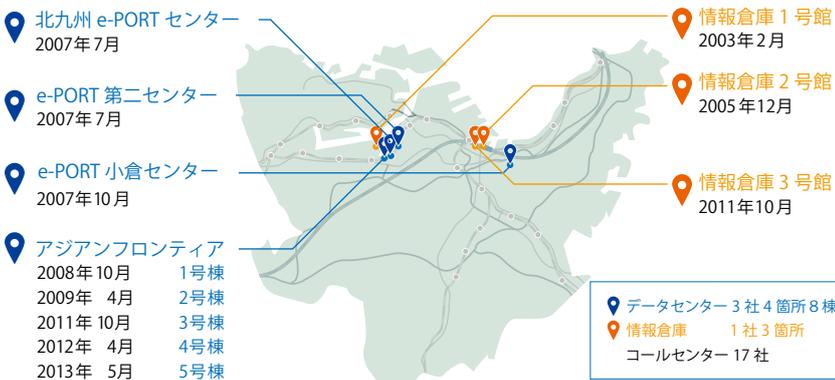
KITAKYUSHU e-PORT 北九州 e-PORT 構想 2.0



「北九州 e-PORT 構想」の成果

北九州 e-PORT 構想は、海の港 (seaport)、空の港 (airport) に続く、第 3 の港として「情報の港 (e-PORT)」を整備し、ICT サービスを電気や水のように、いつでも簡単・便利に使える社会づくりを目指すことをコンセプトとして 2002 年に策定され、誘致を目的とした IT 系展示会への出展、セミナーの開催などのプロモーション活動を行って参りました。

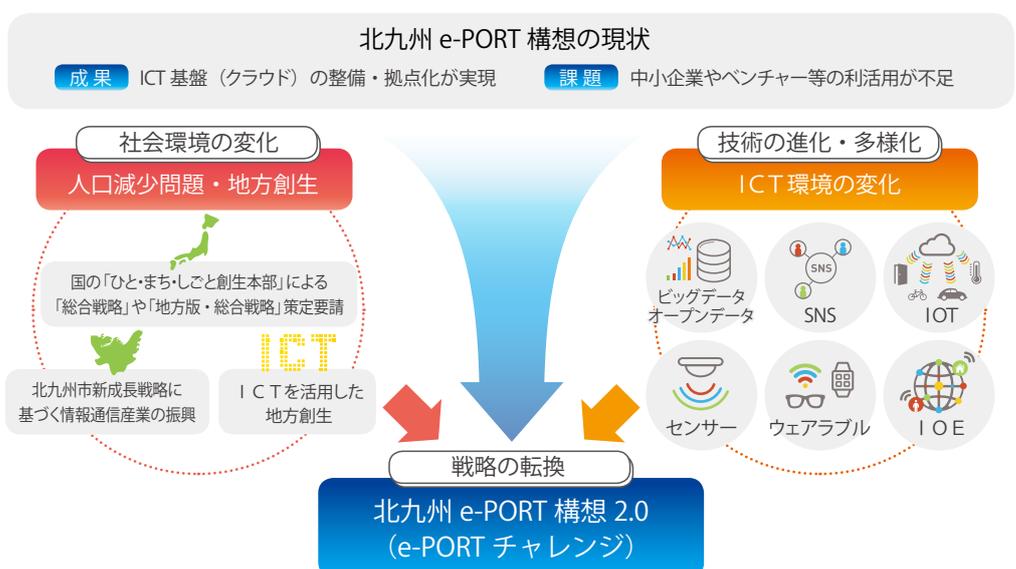
この 12 年間の取り組みの結果、データセンターやコールセンター、情報倉庫など、ICT サービス基盤の構築・拠点化を実現しました。



「北九州 e-PORT 構想」から「北九州 e-PORT 構想 2.0 (e-PORT チャレンジ)」へ

これまで培ってきたデータセンターなどの ICT 基盤や人的ネットワークを活用し、新たな事業にチャレンジする中小・ベンチャー企業等に対して、産・学・官・民・金で支援を行い、ICT サービスの創出による地域課題の解決を行う仕組み「e-PORT チャレンジ」を提供する新構想「北九州 e-PORT 構想 2.0」を 2015 年 2 月に策定しました。

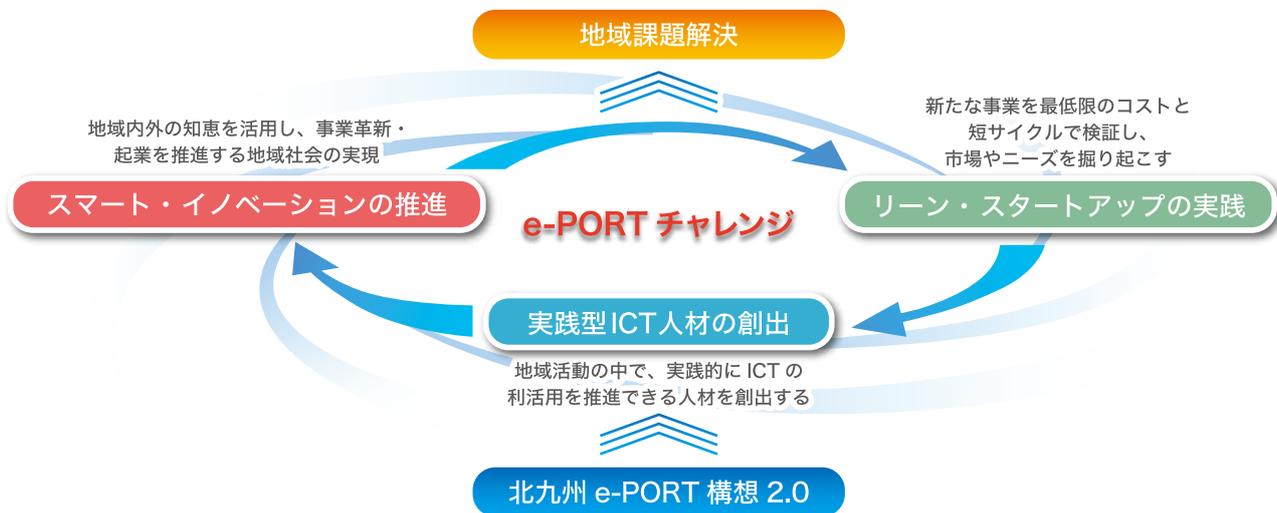
「e-PORT チャレンジ」により創出したビジネスは、地方創生の成功モデルとして北九州から全国へ発信することを目指しています。



地方社会が抱える 課題の解決に ICT で とりくむ新たな仕組み

「北九州 e-PORT 構想 2.0」の基本戦略

本構想の基本戦略として、「スマート・イノベーションの推進」・「リーンスタートアップ」・「実践型 ICT 人材創出」を推進し、「地域課題解決型ビジネス創出のための ICT 活用プラットフォームの構築」を目指しています。

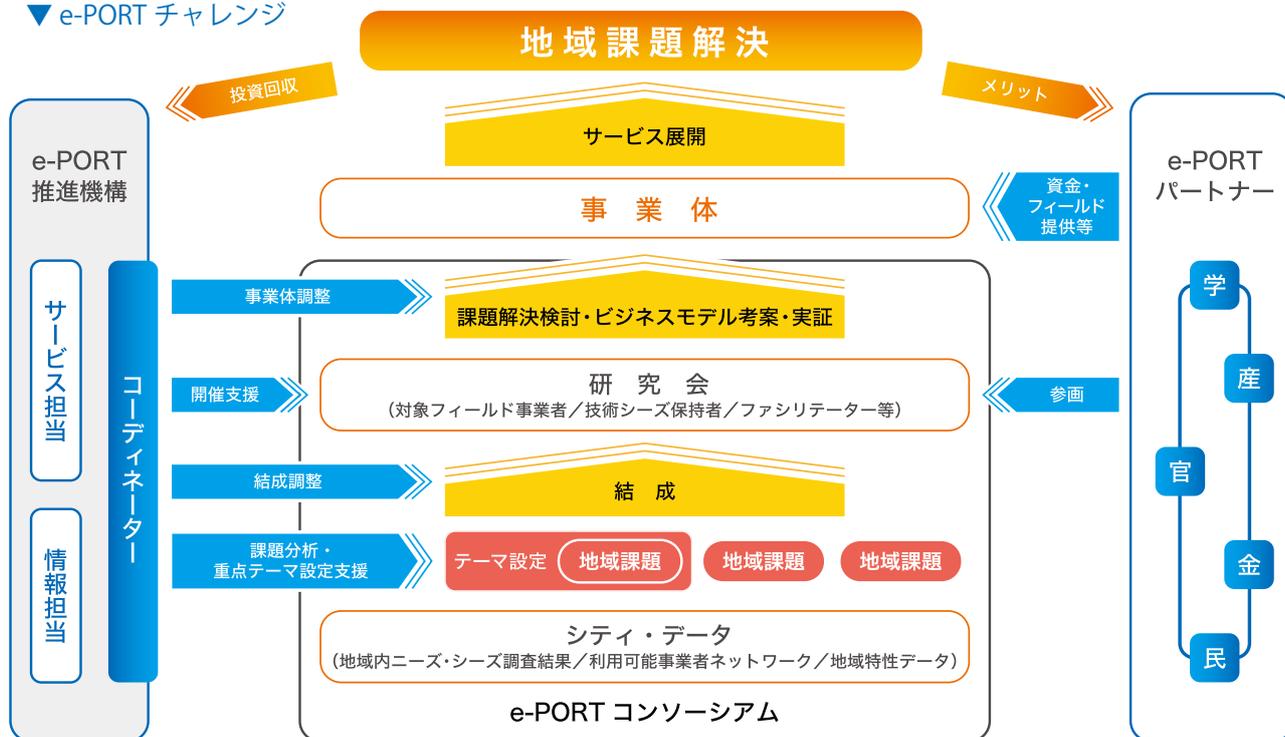


「北九州 e-PORT 構想 2.0」の全体構成 (e-PORT チャレンジ)

北九州 e-PORT 構想 2.0 では、地域課題解決のためのサービスを提供する「e-PORT コンソーシアム」と、その運営主体であり、全体を管理する「e-PORT 推進機構」、産学官民金のネットワークである「e-PORT パートナー」で構成されます。

「e-PORT パートナー」が「e-PORT コンソーシアム」へ参画・連携して、個別サービスの展開主体者である「事業体」への支援を行うプログラムが「e-PORT チャレンジ」です。

▼ e-PORT チャレンジ





EVENT

北九州 e-PORT 構想 2.0 ~ e-PROT チャレンジ~発表会

日時 平成 27 年 4 月 22 日 (水)

場所 リーガロイヤルホテル小倉

「北九州 e-PORT 構想 2.0」のお披露目の場として、発表会を開催しました。発表会には、北九州市副市長をはじめ、地元企業、行政機関など総勢 150 名を超える方々に参加いただきました。

プログラム

【第 1 部】「北九州 e-PORT 構想 2.0」発表会

- 挨拶
- 「北九州 e-PORT 構想 2.0」について
- 「e-PORT チャレンジ」事例紹介

【第 2 部】記念講演

- 講演 1: 「オープンデータに関する政府の動向と地方公共団体への普及取組」
- 講演 2: 「総務省における情報通信政策とイノベーション創出に向けた取組」



役員 [10名] 平成27年4月1日現在 (役職順・50音順)

- ▼理事長
高橋 孝司 公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター 理事長
- ▼理事
大川 博己 北九州市 産業経済局 企業立地・食ブランド推進担当理事
近藤 倫明 公立大学法人北九州市立大学 学長
庄司 裕一 北九州情報サービス産業振興協会 会長
二郎丸 聡夫 北九州商工会議所 事務局長
塚本 寛 北九州工業高等専門学校 校長
廣瀬 香 一般社団法人九州経済連合会 社会資本部長
松永 守央 国立大学法人九州工業大学 学長

- ▼監事
鈴木 雅子 北九州市 前会計室長
間 芳則 日本テレコムインフォメーションサービス株式会社 代表取締役

評議員 [8名] 平成27年4月1日現在 (役職順・50音順)

- 網岡 健司 新日鐵興和不動産株式会社 九州支店 副支店長
生山 武史 株式会社安川電機 人事総務部長
石丸 靖彦 TOTO株式会社
尾家 祐二 九州インターネットプロジェクト 会長
小倉 良夫 九州電力株式会社 執行役員北九州支社長
草刈 昌志 西日本電信電話株式会社 北九州支店長
下川 徹 株式会社高田工業所 取締役兼執行役員技術本部長
東 敏昭 学校法人産業医科大学 学長

賛助会員 [28団体名] 平成27年4月1日現在 (50音順)

- 株式会社アクシス
株式会社エリアサービス
株式会社北九州銀行
北九州商工会議所
新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所
新日鐵住金ソリューションズ株式会社
株式会社スピナ
セイコーエプソン株式会社
株式会社ゼンリンデータコム ソリューション事業部
ソニービジネスソリューション株式会社
ソフトバンクモバイル株式会社
株式会社ソルネット
データキューブ株式会社
TOTO株式会社
西日本コンピュータ株式会社
株式会社西日本シティ銀行 北九州総本部
株式会社日鉄コミュニティ 九州支店
日本電気株式会社 北九州支店
早原特許技術事務所
株式会社ビーフロント
ビズ・コレジオ株式会社
株式会社日立製作所 九州支社
富士通株式会社 九州支社
安川オピアス株式会社
安川情報システム株式会社
株式会社リンク
株式会社ロココ
株式会社ワンビシアークイブズ 九州支店

ACCESS JR八幡駅から徒歩5分

公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター (略称: ヒューマンメディア財団)
〒805-0071 北九州市八幡東区東田1丁目5番7号 TEL 093-663-2950 FAX 093-663-2955

